

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 1 日 (2007.3.1)

【公開番号】特開 2001-271835 (P2001-271835A)
 【公開日】平成 13 年 10 月 5 日 (2001.10.5)
 【出願番号】特願 2001-8547 (P2001-8547)
 【国際特許分類】

F 1 6 C 29/06 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 29/06

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 1 月 16 日 (2007.1.16)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 各転動体と移動部材の相対位置が変化する移動部材の 2 D a ストロークにおける、有効転動体数が I になる範囲と I - 1 になる範囲との比が、約 100% : 約 0% になるように、軌道面長さおよび転動体径を選定する転がり案内装置の軌道面長さおよび転動体径の選定方法。

ここで、 $I = \text{int} (2 U x / D a + 0.5)$

2 U x : 移動部材軌道面長さ

D a : 転動体ピッチ

【請求項 2】 各転動体と移動部材の相対位置が変化する移動部材の 2 D a ストロークにおける、有効転動体数が I になる範囲と I - 1 になる範囲との比が、約 100% : 約 0% になるように、軌道面長さおよび転動体径を選定する転がり案内装置。

ここで、 $I = \text{int} (2 U x / D a + 0.5)$

2 U x : 移動部材軌道面長さ

D a : 転動体ピッチ

【請求項 3】 軌道軸上に少なくとも一つの移動部材を組み付けた転がり案内装置システムにおいて、

前記移動部材は、各転動体と移動部材の相対位置が変化する移動部材の 2 D a ストロークにおける、有効転動体数が I になる部分と I - 1 になる部分との比が、約 100% : 約 0% になるように、軌道面長さおよび転動体径が選定されることを特徴とする転がり案内装置システム。

ここで、 $I = \text{int} (2 U x / D a + 0.5)$

2 U x : 移動部材軌道面長さ

D a : 転動体ピッチ

【請求項 4】 軌道軸上に複数の移動部材を組み付けた転がり案内装置システムにおいて、

前記複数の移動部材内の転動体の相対位置が揃うように、前記移動部材のスパンを調整することを特徴とする転がり案内装置システム。

【請求項 5】 前記転がり案内システムは、複数の軌道軸を有し、前記複数の軌道軸に組み付けられた前記複数の移動部材内の転動体の相対位置が揃うように、前記移動部材のスパンを調整することを特徴とする請求項 4 に記載の転がり案内装置システム。

【請求項 6】 前記移動部材は、各転動体と移動部材の相対位置が変化する移動部材

の2 Da ストロークにおける、有効転動体数がIになる範囲とI - 1になる範囲との比が、約100%：約0%になるように、軌道面長さおよび転動体径が選定されることを特徴とする請求項4または5に記載の転がり案内装置システム。

ここで、 $I = \text{int} (2 U x / D a + 0.5)$

2 U x：移動部材軌道面長さ

D a：転動体ピッチ

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0083

【補正方法】削除

【補正の内容】